

調査結果の分析

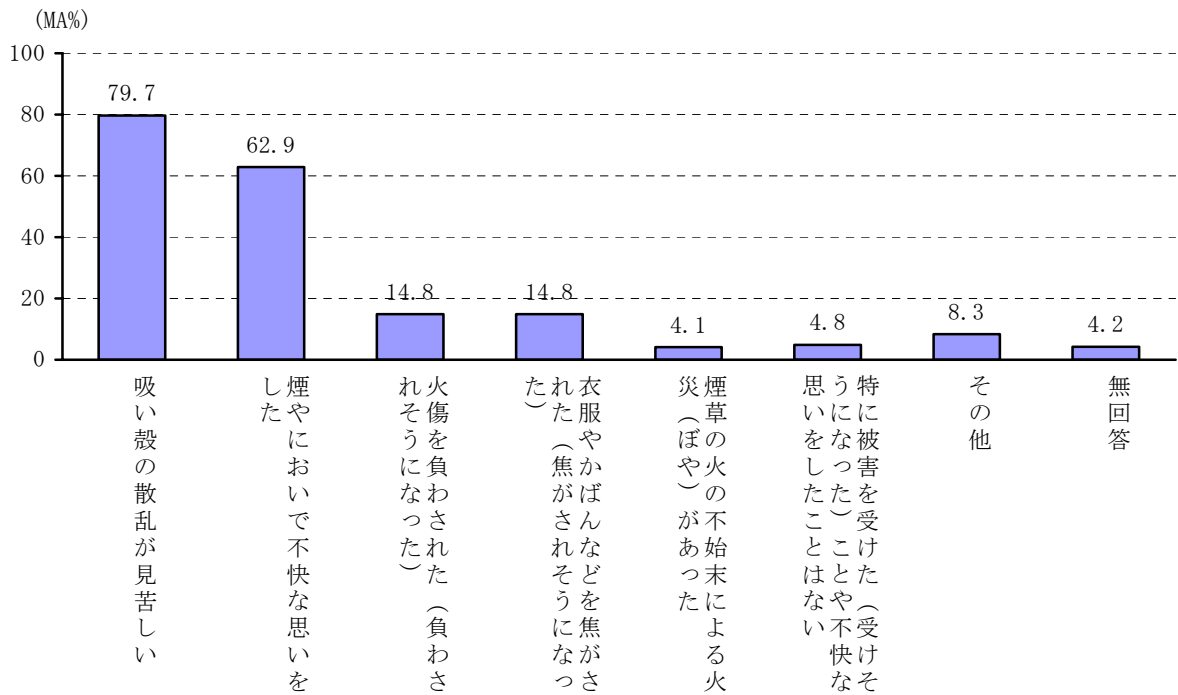
V 調査結果の分析

I 路上喫煙について

1 路上喫煙による被害経験

問1 道路や公園など、屋外の公共の場所での喫煙（路上喫煙）により、被害を受けた（受けそうになった）ことや不快な思いをしたことはありますか。（〇はいくつでも）

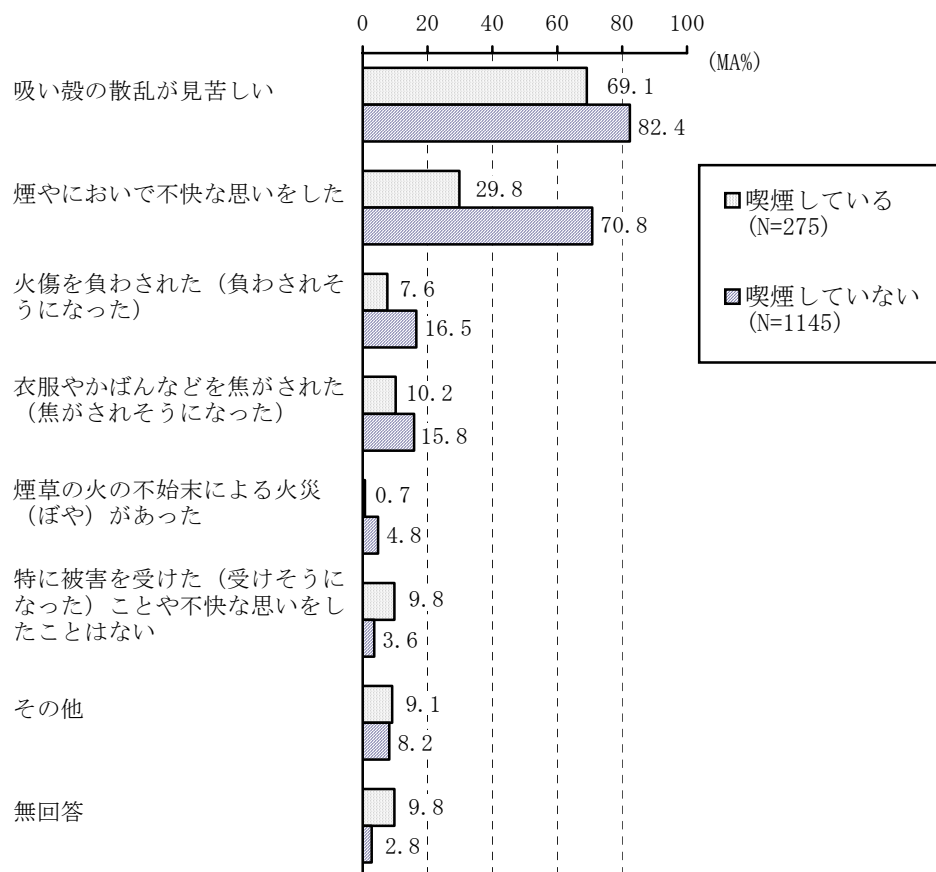
図1-1 路上喫煙による被害経験



路上喫煙で受けた被害について、「吸い殻の散乱が見苦しい」が79.7%と最も高く、以下順に「煙やにおいで不快な思いをした」が62.9%、「火傷を負わされた（負わされそうになった）」が14.8%、「衣服やかばんなどを焦がされた（焦がされそうになった）」が14.8%と続いている。また、「特に被害を受けた（受けそうになった）ことではない」と回答した人は全体の4.8%にとどまっている。

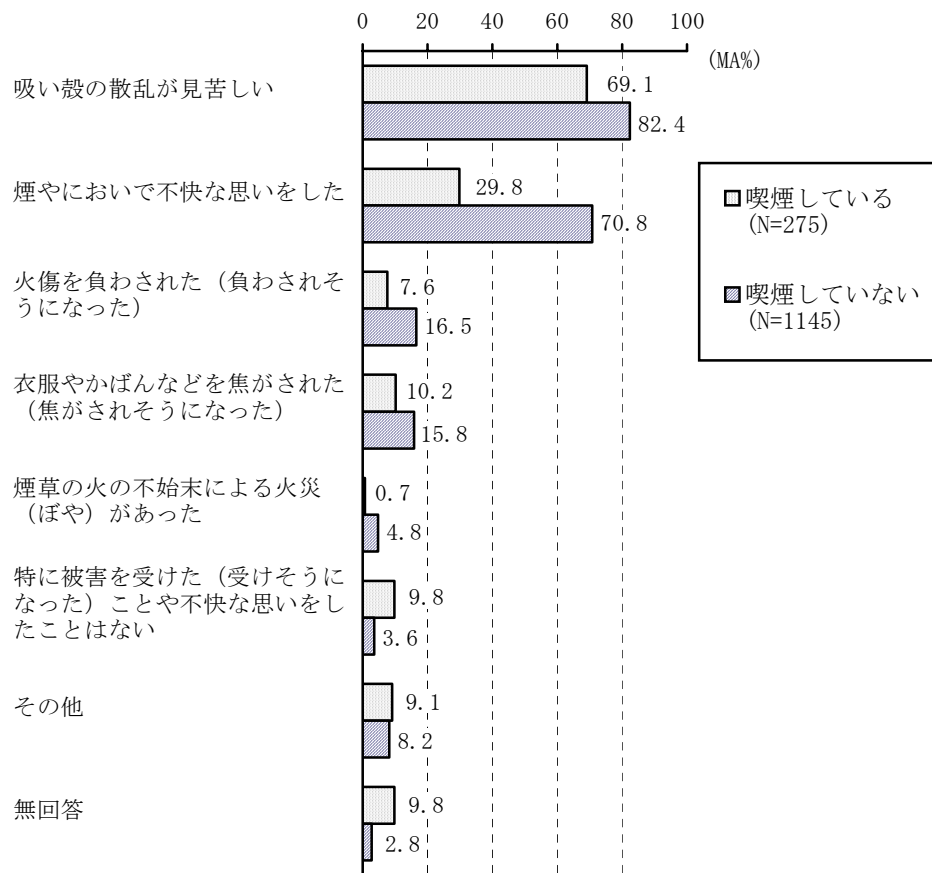
（図1-1）

図1-2 喫煙の有無別 路上喫煙による被害経験



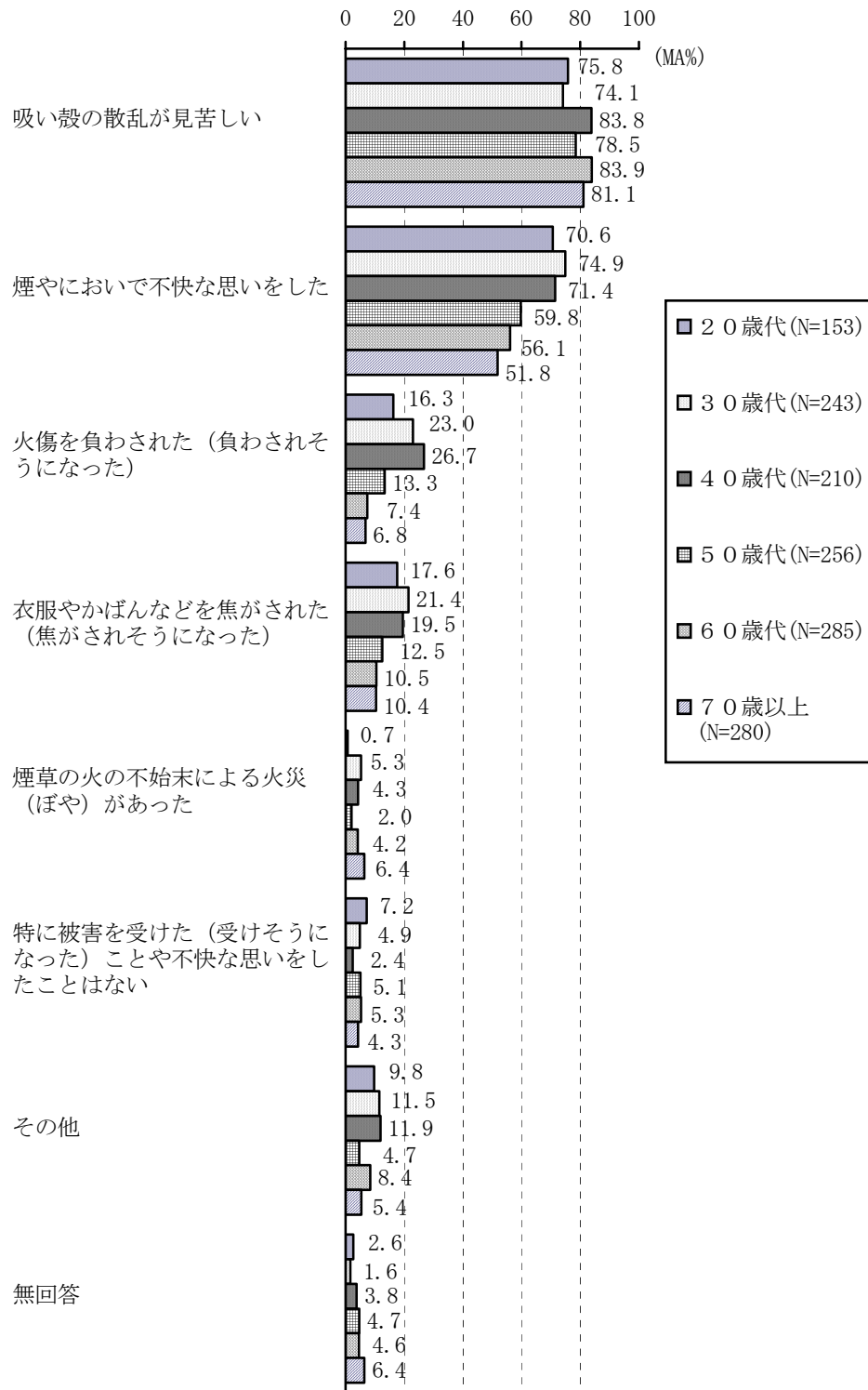
喫煙の有無別にみると、「特に被害を受けた (受けそうになった) ことや不快な思いをしたことはない」を除く項目では、喫煙していない人の方が割合は高く、特に、「煙やにおいで不快な思いをした」では差が大きく、喫煙していない人が 70.8% と高くなっており、喫煙している人と比べて 41.0 ポイント上回っている。(図1-2)

図1-3 性別 路上喫煙による被害経験



性別にみると、被害を受けた・不快な思いをした上位4項目は女性の方が割合は高く、特に、「煙やにおいで不快な思いをした」では男女差が大きく、女性の方が11.8ポイント高くなっている。(図1-3)

図1-4 年齢別 路上喫煙による被害経験

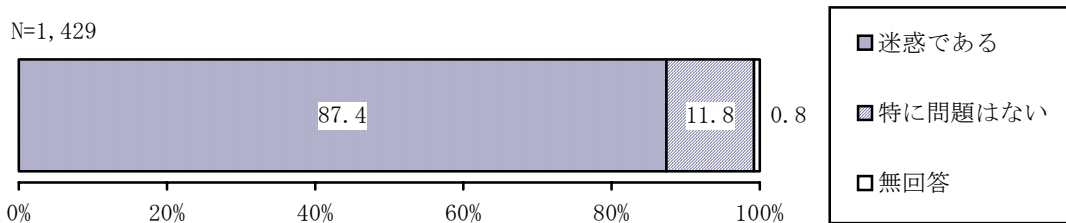


年齢別にみると、「吸い殻の散乱が見苦しい」が50歳代を除く40歳代以上の年代で8割以上と高年齢層で割合が高くなっている。「煙やにおいで不快な思いをした」では30歳代で最も高く、年代が上がるほど割合は低くなっている。(図1-4)

2 路上喫煙の現状について思うこと

問2 路上喫煙の現状についてどのように思われますか。(○はいずれかに)

図2-1 路上喫煙の現状について思うこと



路上喫煙の現状について、「迷惑である」と回答した人が87.4%とほとんどを占め、「特に問題はない」と回答した人は11.8%にとどまっている。(図2-1)

図2-2 喫煙の有無別 路上喫煙の現状について思うこと

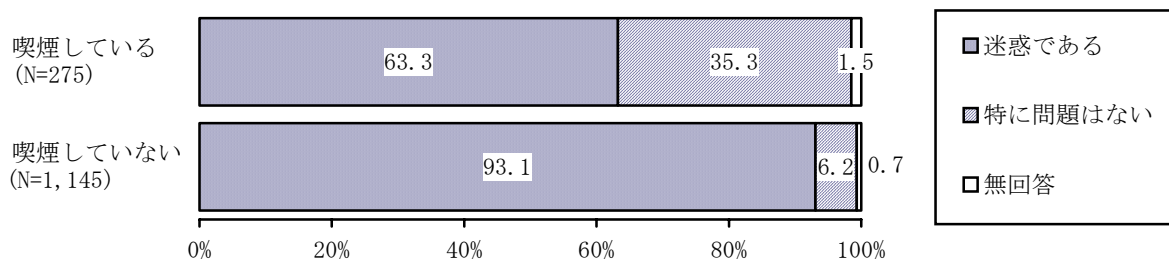
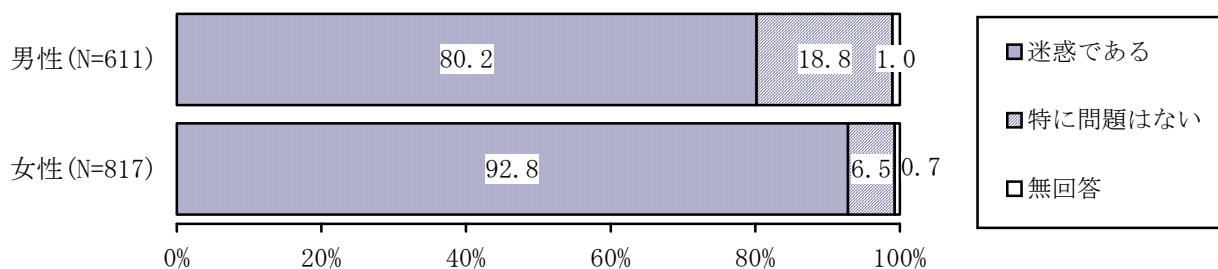


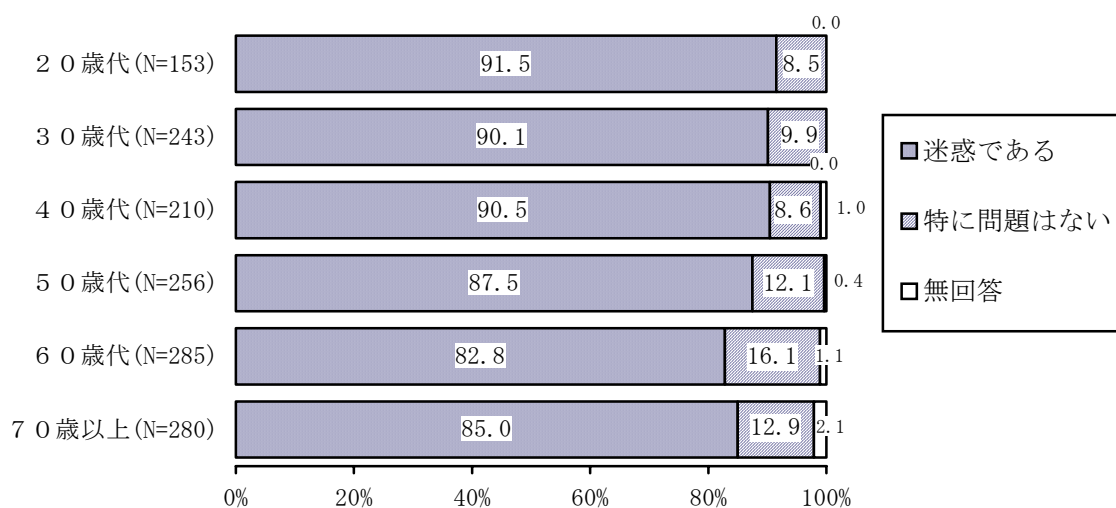
図2-3 性別 路上喫煙の現状について思うこと



喫煙の有無別にみると、「迷惑である」と回答した人は喫煙していない人で93.1%と高く、喫煙している人の63.3%と比べると29.8ポイントの差となっている。(図2-2)

性別にみると、「迷惑である」という回答は92.8%と女性の方が高く、男女差は12.6ポイントとなっている。(図2-3)

図2-4 年齢別 路上喫煙の現状について思うこと



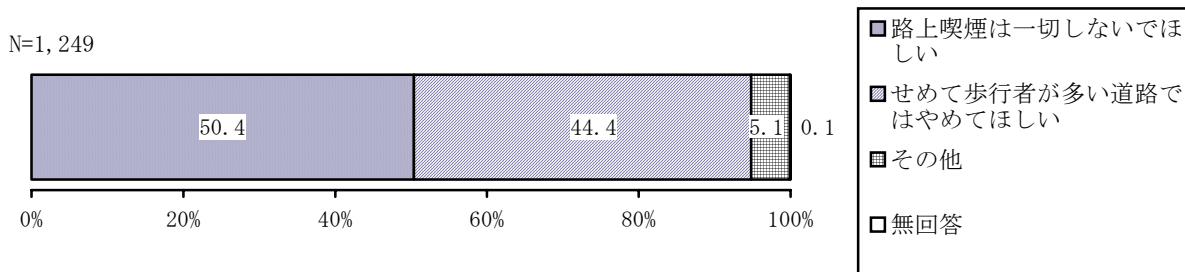
年齢別にみると、「迷惑である」という回答は年代が下がるほど割合は高く、20歳代で91.5%と最も高くなっている。「特に問題はない」と回答した人は60歳代で16.1%と最も高くなっている。(図2-4)

2-1 喫煙者に対する考え

【問2で「1 迷惑である」と回答された方におたずねします。】

問2-1 喫煙者に対してどのように思われますか。(〇は1つのみ)

図2-1-1 喫煙者に対する考え



問2で「迷惑である」と回答した人に、喫煙者に対する考えを尋ねたところ、「路上喫煙は一切しないでほしい」と回答した人は50.4%と半数を占め、「せめて歩行者が多い道路ではやめてほしい」は44.4%とわずかに下回っている。(図2-1-1)

図2-1-2 喫煙の有無別 喫煙者に対する考え

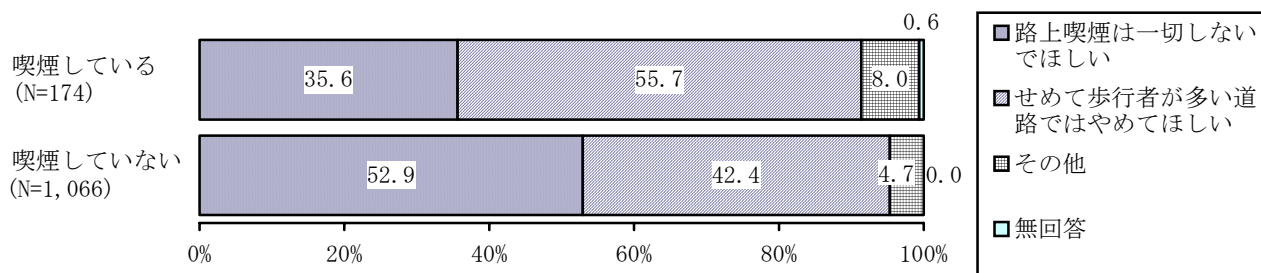
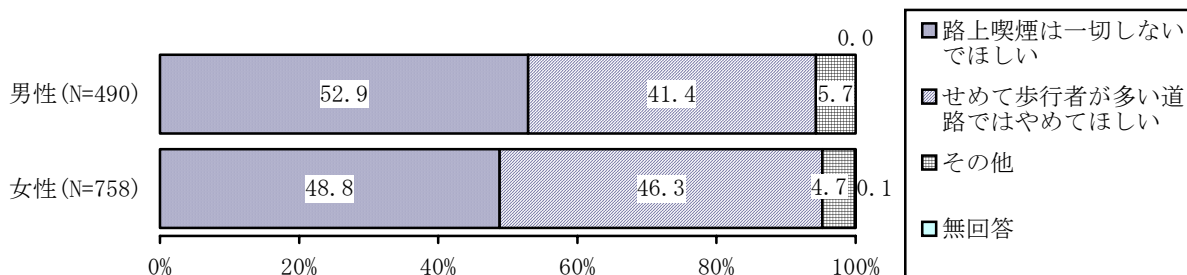


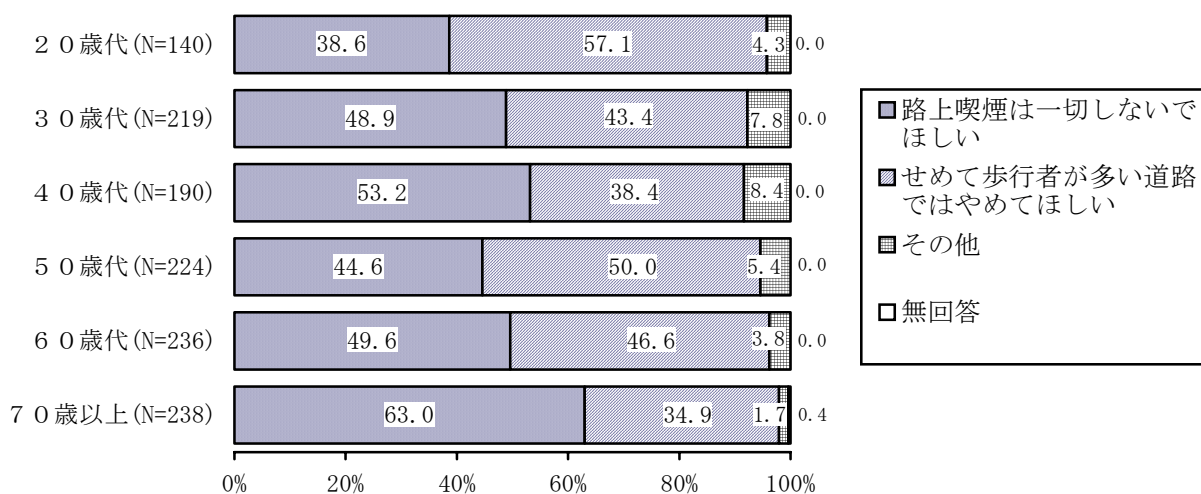
図2-1-3 性別 喫煙者に対する考え



喫煙の有無別にみると、「路上喫煙は一切しないでほしい」と回答した人は、喫煙していない人で52.9%と高く、喫煙している人と比べると17.3ポイントの差となっている。一方、「せめて歩行者が多い道路ではやめてほしい」と回答した人は、喫煙している人で55.7%と高く、喫煙していない人との差は13.3ポイントとなっている。(図2-1-2)

性別にみると、「路上喫煙は一切しないでほしい」という回答は、男性の方が52.9%と高いが、大きな男女差はみられない。女性は「路上喫煙は一切しないでほしい」が48.8%、「せめて歩行者が多い道路ではやめてほしい」が46.3%とほぼ同程度の割合となっている。(図2-1-3)

図2-1-4 年齢別 喫煙者に対する考え



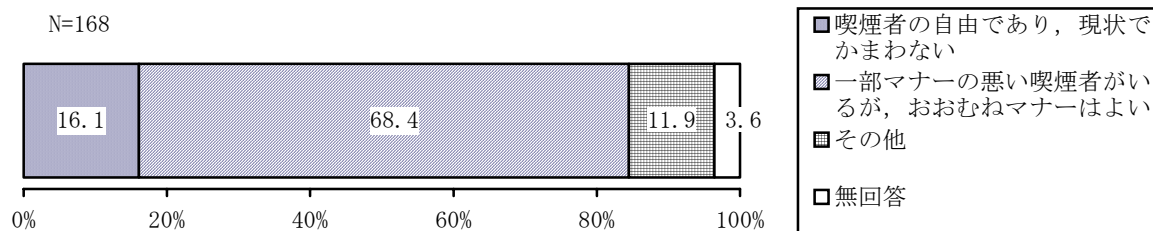
年齢別にみると、「路上喫煙は一切しないでほしい」という回答は40歳代、70歳以上で半数を超えており、特に、70歳以上では63.0%と最も高くなっている。「せめて歩行者が多い道路ではやめてほしい」は20歳代で57.1%と最も高く、50歳代でも半数を占めている。(図2-1-4)

2-2 喫煙者に対する考え

【問2で「2 特に問題はない」と回答された方におたずねします。】

問2-2 喫煙者に対してどのように思われますか。(○は1つのみ)

図2-2-1 喫煙者に対する考え



問2で「特に問題はない」と回答した人に、喫煙者に対しての考えをたずねたところ、「一部マナーの悪い喫煙者がいるが、おおむねマナーはよい」と回答した人が68.4%と高く、「喫煙者の自由であり、現状でかまわない」は16.1%となっている。(図2-2-1)

図2-2-2 喫煙の有無別 喫煙者に対する考え

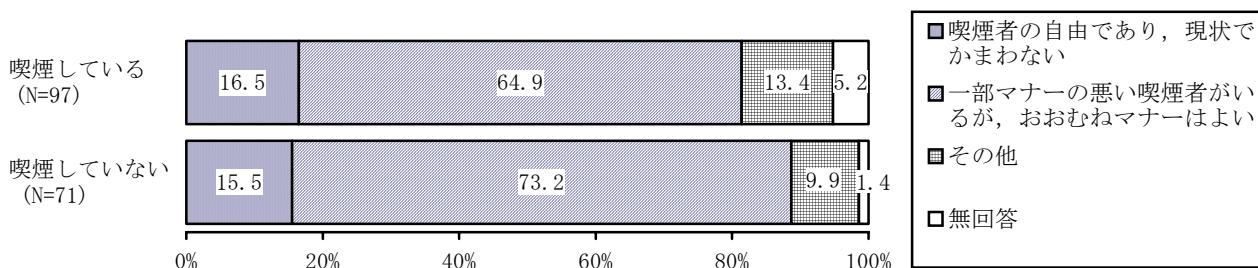
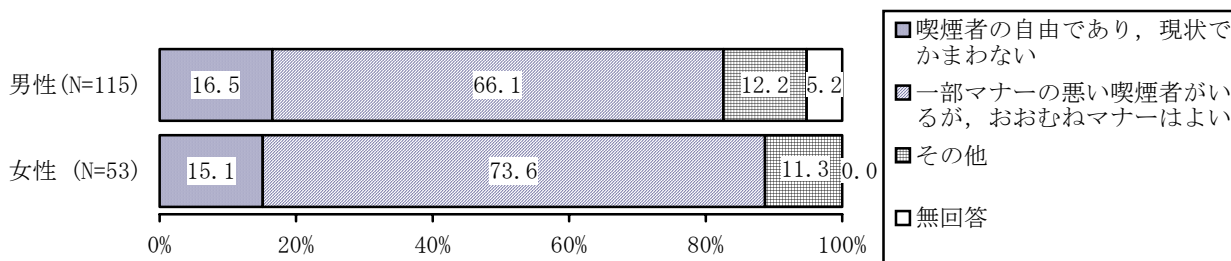


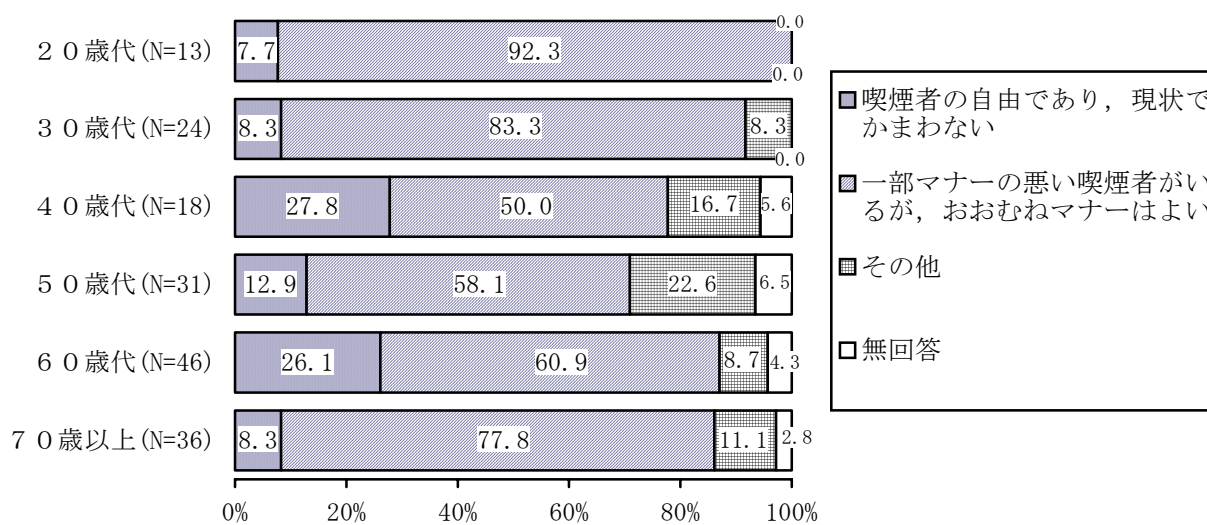
図2-2-3 性別 喫煙者に対する考え



喫煙の有無別にみると、「一部マナーの悪い喫煙者がいるが、おおむねマナーはよい」と回答した人は、喫煙していない人で73.2%と高く、喫煙している人と比べると8.3ポイントの差となっている。一方、「喫煙者の自由であり、現状でかまわない」と回答した人は、喫煙の有無で大きな差はみられない。(図2-2-2)

性別にみると、「一部マナーの悪い喫煙者がいるが、おおむねマナーはよい」と回答した人は、女性の方が73.6%と男性よりも7.5ポイント高いが、「喫煙者の自由であり、現状でかまわない」では大きな男女差はみられない。(図2-2-3)

図2-2-4 年齢別 喫煙者に対する考え



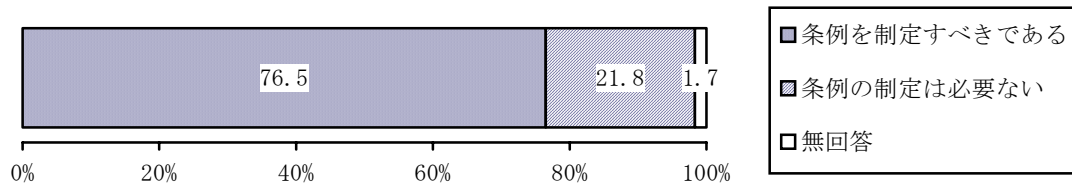
年齢別にみると、「一部マナーの悪い喫煙者がいるが、おおむねマナーはよい」と回答した人は、20歳代で92.3%、30歳代で83.3%と若年層で高くなっている。「喫煙者の自由であり、現状でかまわない」は40歳代で27.8%と最も高く、次いで60歳代で26.1%となっている。(図2-2-4)

Ⅱ 路上喫煙防止条例について

3 京都市において条例を制定することについての考え

問3 京都市において条例を制定することについてどのように思われますか。(○はいずれかに)

図3-1 京都市において条例を制定することについての考え



「条例を制定すべきである」と回答した人は76.5%と「条例の制定は必要ない」と回答した人の21.8%を大きく上回っている。(図3-1)

図3-2 喫煙の有無別 京都市において条例を制定することについての考え

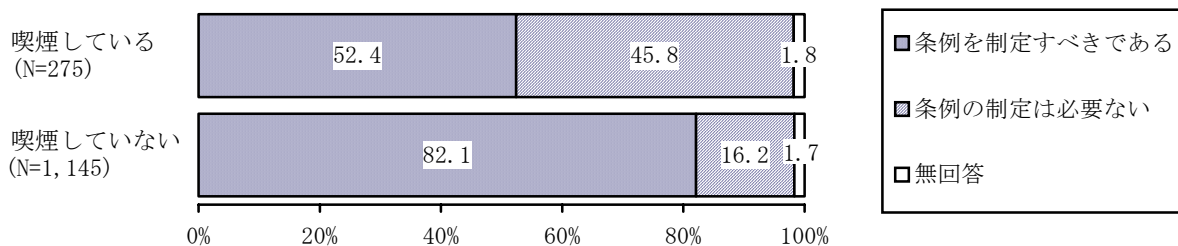
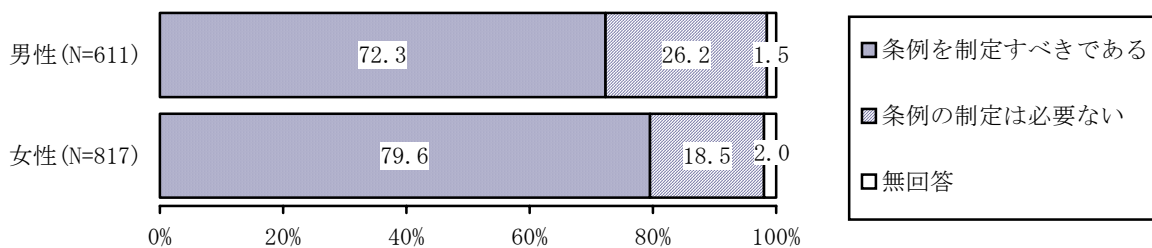


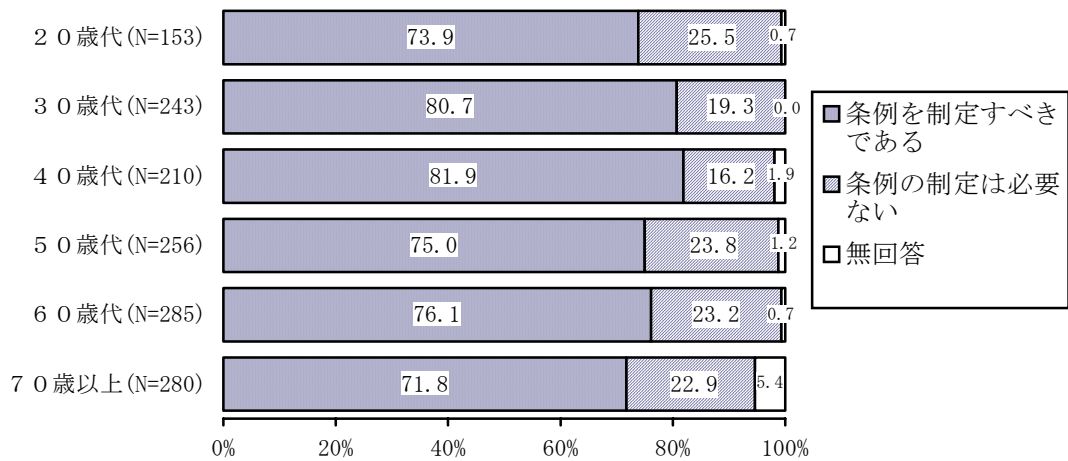
図3-3 性別 京都市において条例を制定することについての考え



喫煙の有無別にみると、「条例を制定すべきである」と回答した人は、喫煙していない人で82.1%と高く、喫煙している人と比べると29.7ポイント上回っている。(図3-2)

性別にみると、「条例を制定すべきである」と回答した人は、女性の方が7.3ポイント高くなっている。(図3-3)

図3-4 年齢別 京都市において条例を制定することについての考え



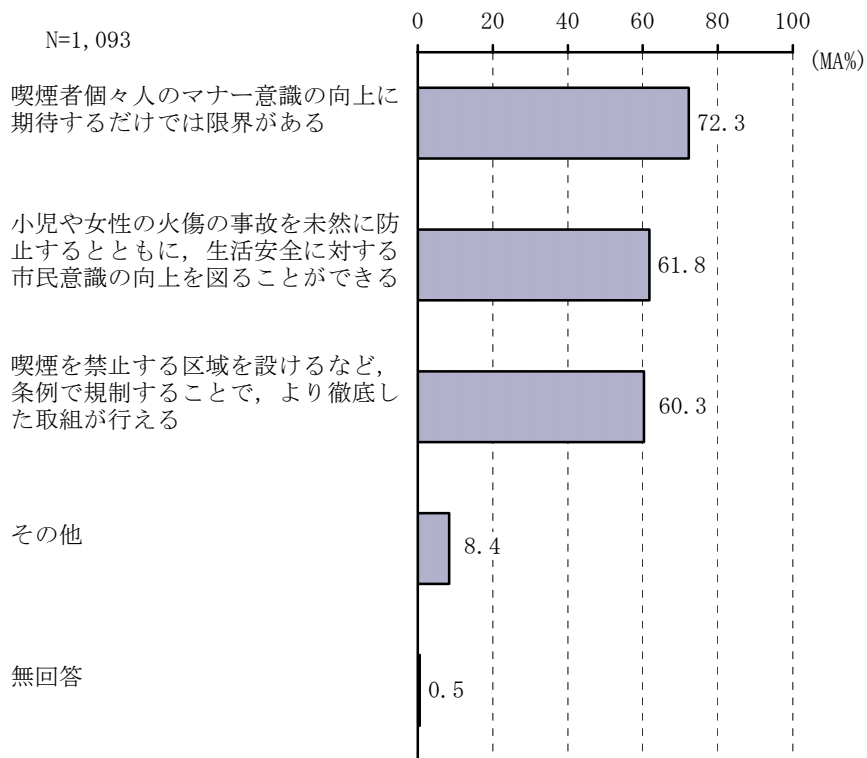
年齢別にみると、「条例を制定すべきである」と回答した人は、30歳代、40歳代で8割以上と高く、その他の年代では7割台となっている。(図3-4)

3-1 条例を制定すべき理由

【問3で「1 条例を制定すべきである」と回答された方におたずねします。】

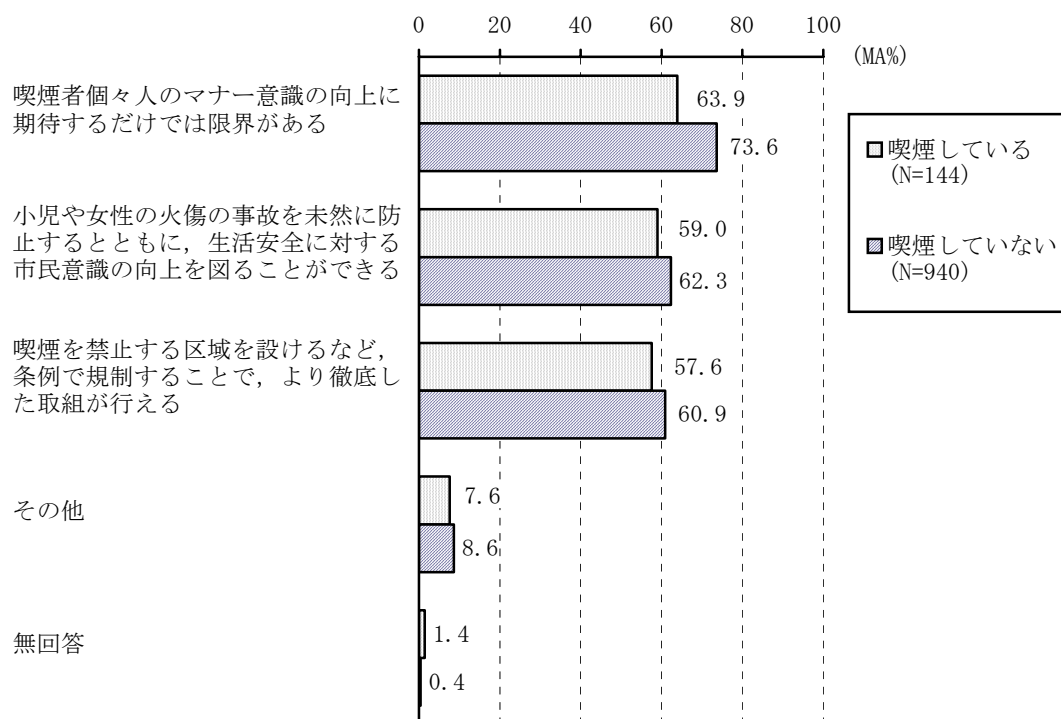
問3-1 条例を制定すべき理由をお聴かせください。(〇はいくつでも)

図3-1-1 条例を制定すべき理由



「条例を制定すべきである」と回答した人にその理由をたずねたところ、「喫煙者個々人のマナー意識の向上に期待するだけでは限界がある」が72.3%と最も高く、次いで、「小児や女性の火傷の事故を未然に防止するとともに、生活安全に対する市民意識の向上を図ることができる」が61.8%、「喫煙を禁止する区域を設けるなど、条例で規制することで、より徹底した取組が行える」が60.3%といずれも6割以上となっている。(図3-1-1)

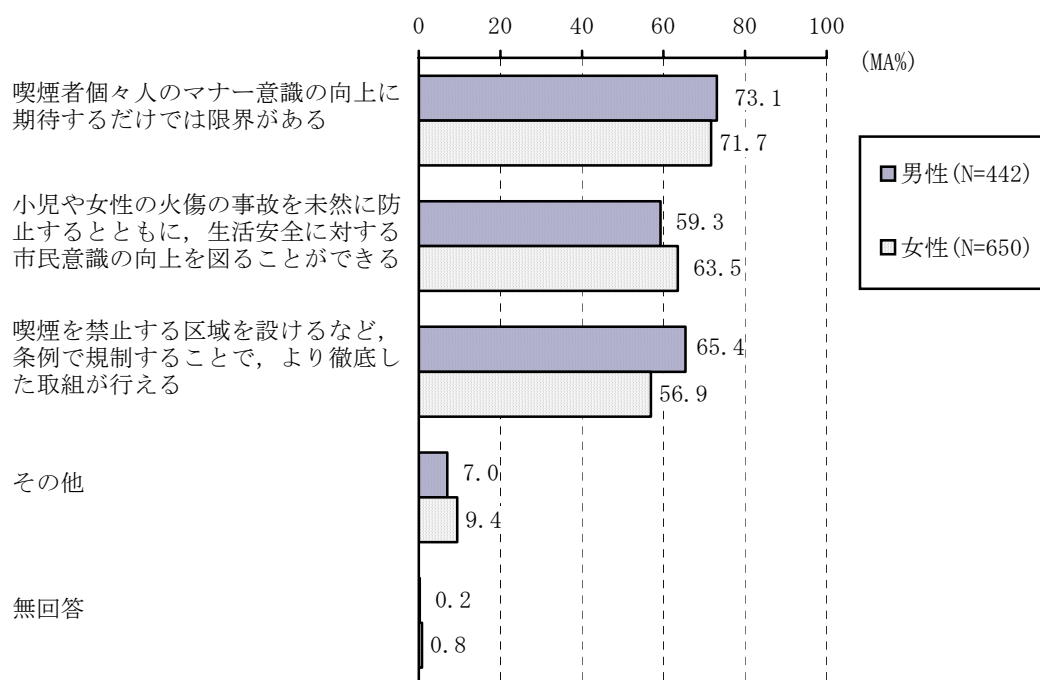
図3-1-2 喫煙の有無別 条例を制定すべき理由



喫煙の有無別にみると、全ての項目で喫煙していない人の方が割合は高く、最も差が大きい項目として「喫煙者個々人のマナー意識の向上に期待するだけでは限界がある」で9.7ポイントとなっている。

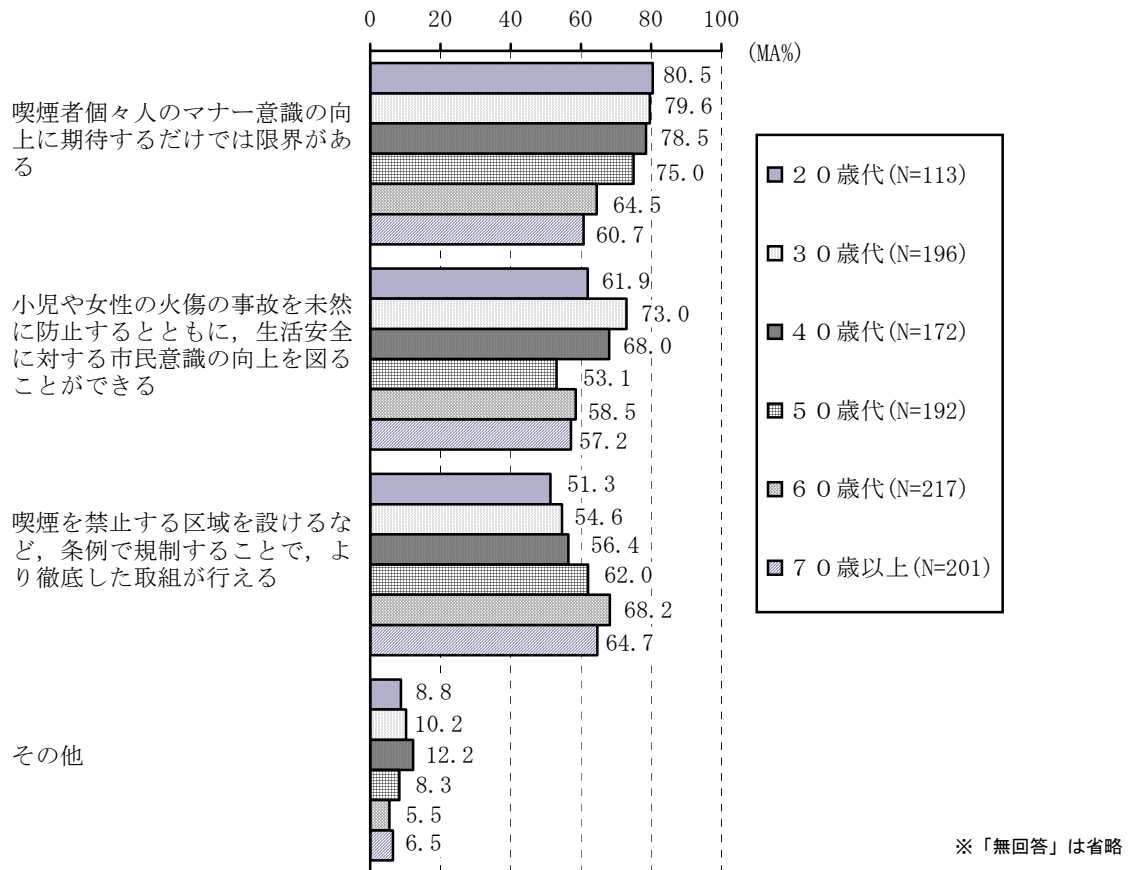
(図3-1-2)

図3-1-3 性別 条例を制定すべき理由



性別にみると、男女差が大きい項目として「喫煙を禁止する区域を設けるなど、条例で規制することで、より徹底した取組が行える」で8.5ポイント男性が高くなっている。「小児や女性の火傷の事故を未然に防止するとともに、生活安全に対する意識の向上を図ることができる」では女性の方が割合は高くなっている。(図3-1-3)

図3-1-4 年齢別 条例を制定すべき理由



年齢別にみると、「喫煙者個々人のマナー意識の向上に期待するだけでは限界がある」では年代が下がるほど、「喫煙を禁止する区域を設けるなど、条例で規制することで、より徹底した取組が行える」では年代が上がるほど割合は高くなっている。「小児や女性の火傷の事故を未然に防止するとともに、生活安全に対する意識の向上を図ることができる」では30歳代、40歳代が割合が高くなっている。

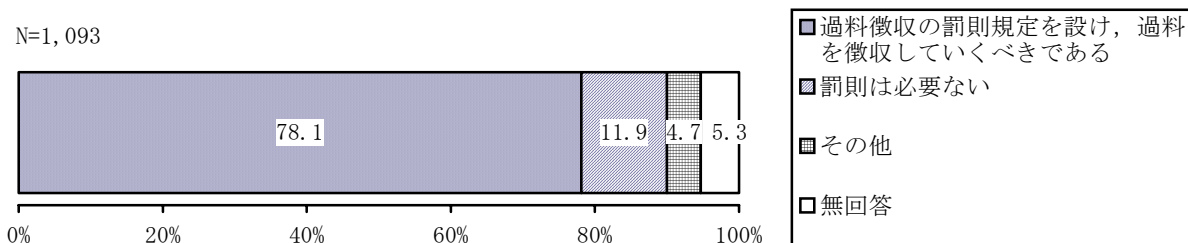
(図3-1-4)

3-2 違反者に罰則を科すことについての考え

【問3で「1 条例を制定すべきである」と回答された方におたずねします。】

問3-2 条例の違反者に罰則を科すことについてどのように思われますか。(〇は1つのみ)

図3-2-1 違反者に罰則を科すことについての考え



「条例を制定すべきである」と回答した人に条例の違反者に罰則を科すことについて、たずねたところ、「過料徴収の罰則規定を設け、過料を徴収していくべきである」が78.1%と「罰則は必要ない」の11.9%を大きく上回っている。(図3-2-1)

図3-2-2 喫煙の有無別 違反者に罰則を科すことについての考え

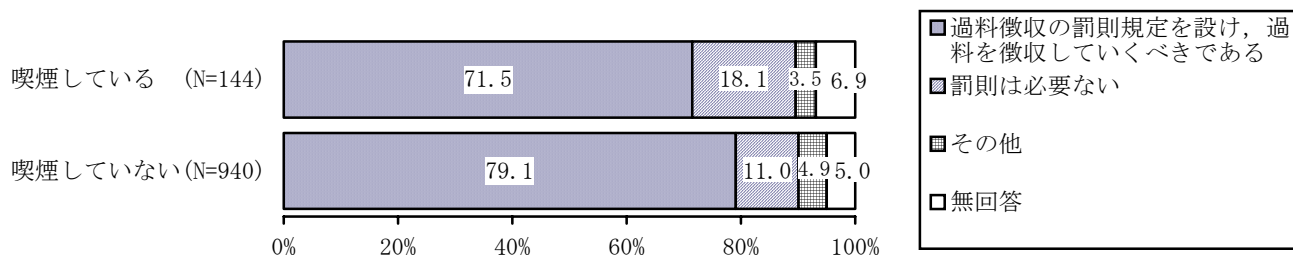
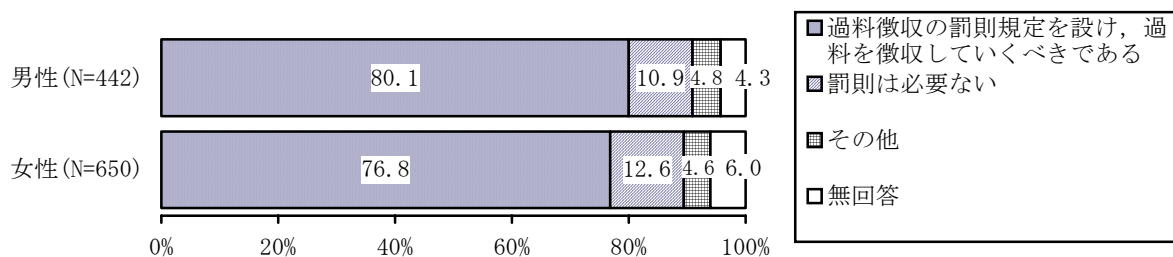


図3-2-3 性別 違反者に罰則を科すことについての考え

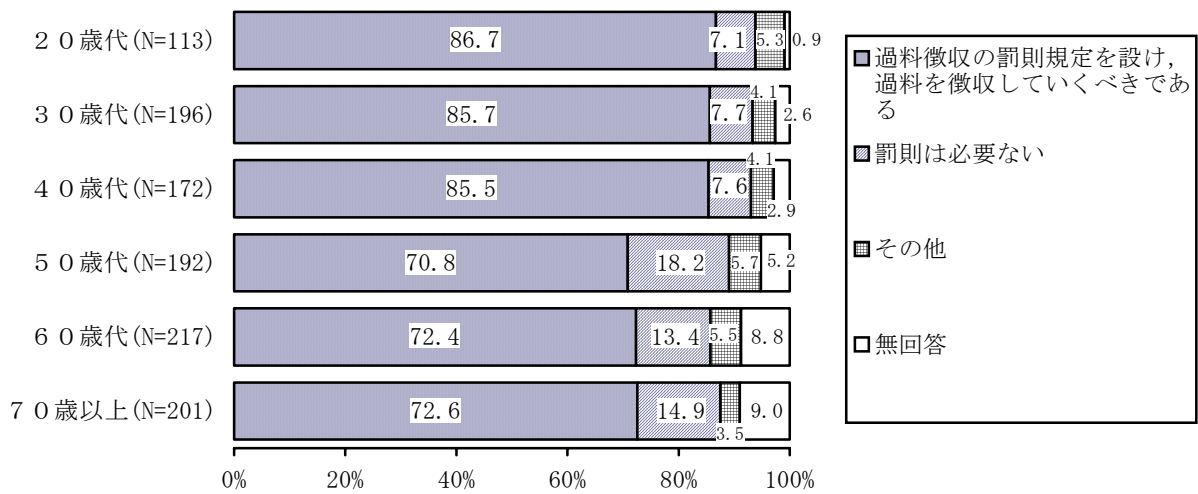


喫煙の有無別にみると、「過料徴収の罰則規定を設け、過料を徴収していくべきである」という回答は79.1%と喫煙していない人の方が高く、喫煙している人との差は7.6ポイントとなっている。

(図3-2-2)

性別にみると、「過料徴収の罰則規定を設け、過料を徴収していくべきである」という回答は80.1%と男性の方が高く、男女差は3.3ポイントとなっている。(図3-2-3)

図3-2-4 年齢別 違反者に罰則を科すことについての考え



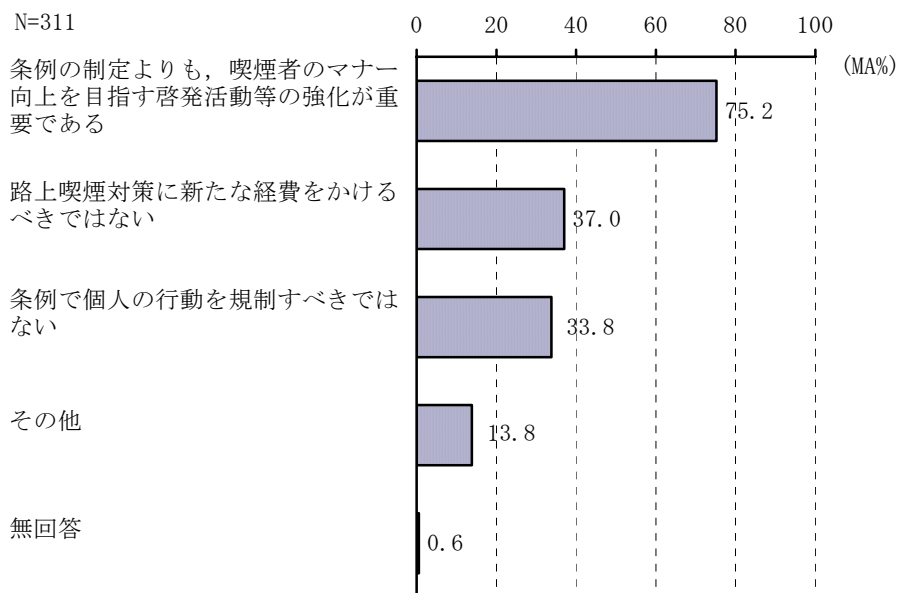
年齢別にみると、「過料徴収の罰則規定を設け、過料を徴収していきべきである」という回答は、40歳代以下の年代で8割台と高くなっている。一方、50歳代以上の年代では7割台にとどまり、「罰則は必要ない」という回答が高くなっている。(図3-2-4)

3-3 条例の制定が必要でない理由

【問3で「2 条例の制定は必要ない」と回答された方におたずねします。】

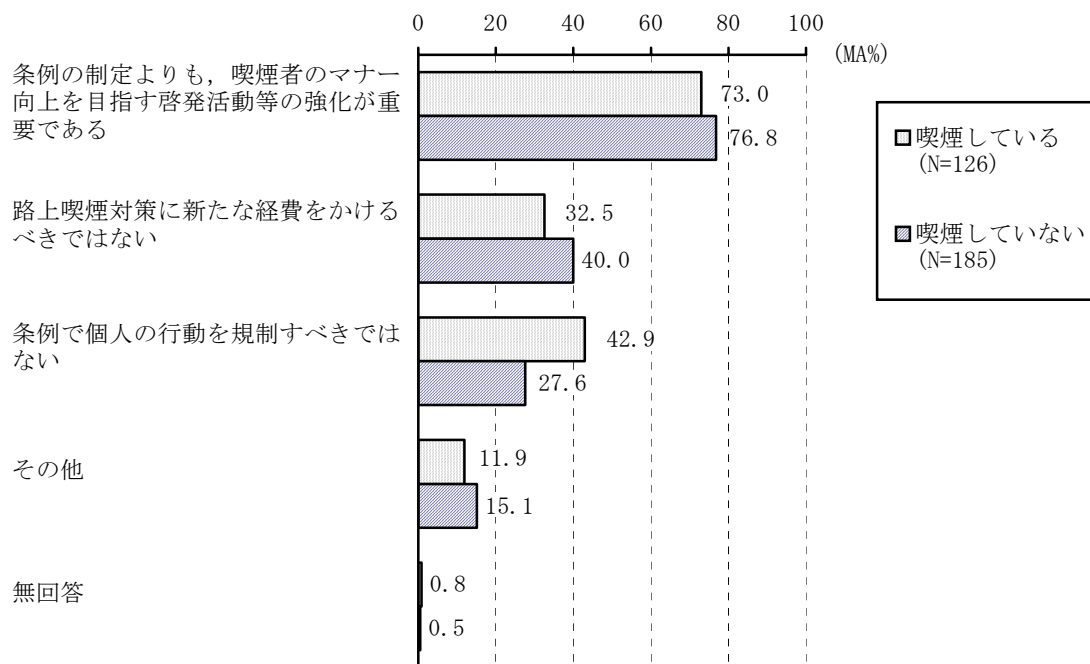
問3-3 条例の制定が必要でない理由をお聴かせください。(〇はいくつでも)

図3-3-1 条例の制定が必要でない理由



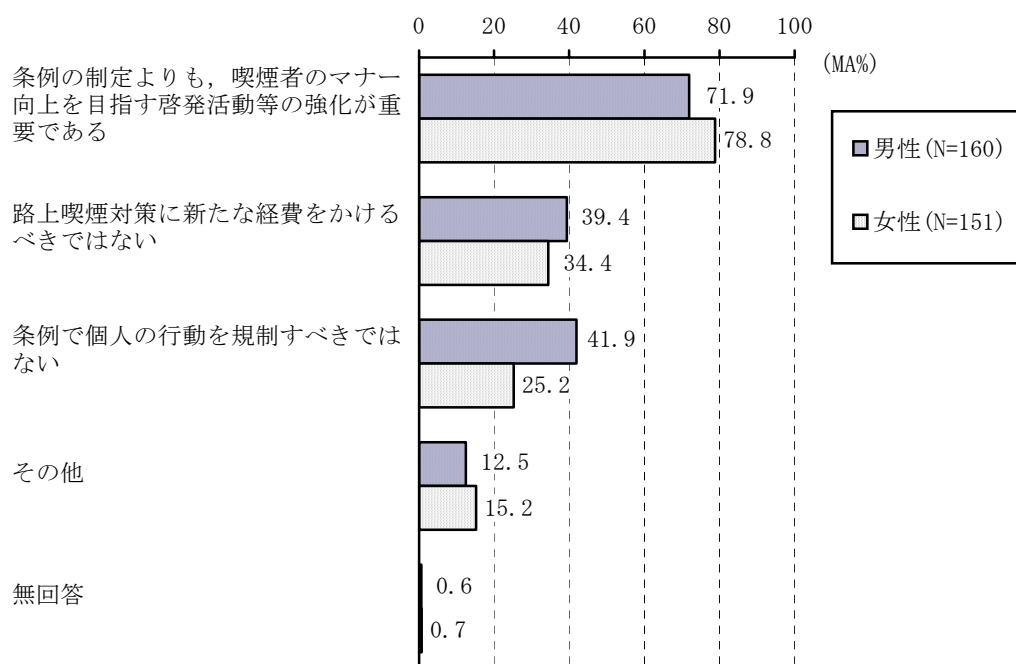
「条例の制定は必要ない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「条例の制定よりも、喫煙者のマナー向上を目指す啓発活動等の強化が重要である」が75.2%と最も高く、次いで、「路上喫煙対策に新たな経費をかけるべきではない」が37.0%、「条例で個人の行動を規制すべきではない」が33.8%となっている。(図3-3-1)

図3-3-2 喫煙の有無別 条例の制定が必要でない理由



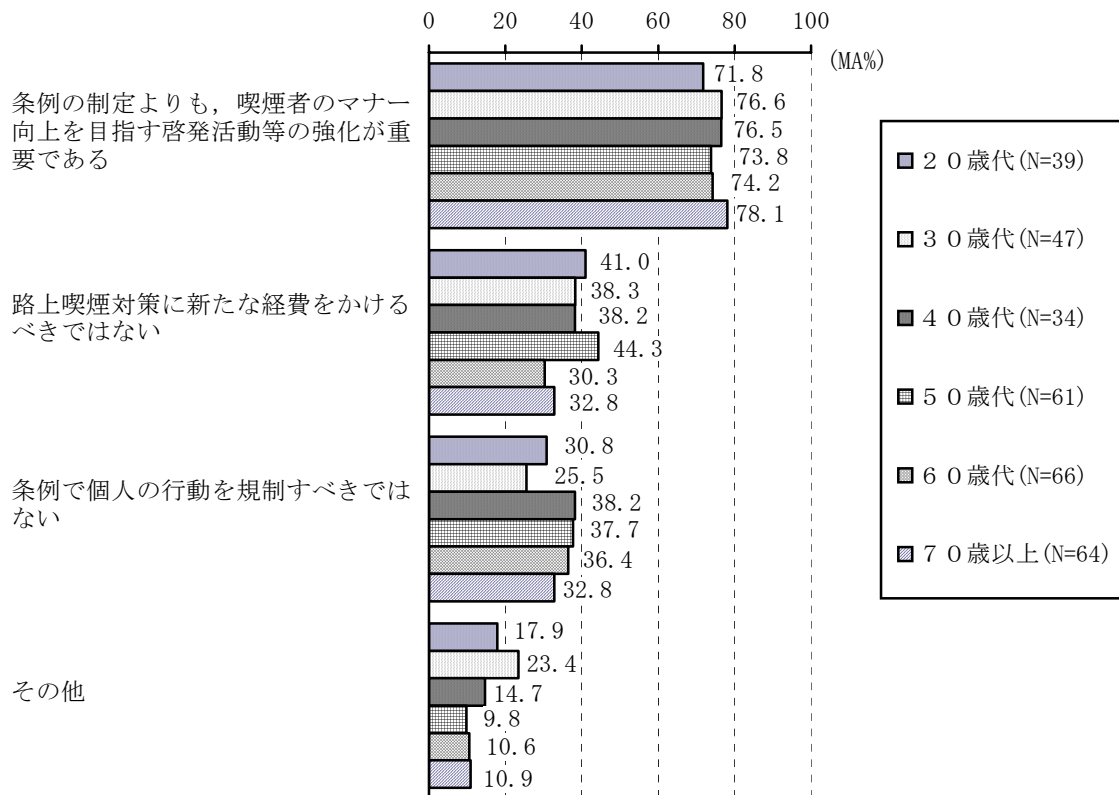
喫煙の有無別にみると、「条例の制定よりも、喫煙者のマナー向上を目指す啓発活動等の強化が重要である」、「路上喫煙対策に新たな経費をかけるべきではない」では共に喫煙していない人の方が、若干割合は高くなっている。「条例で個人の行動を規制すべきではない」は喫煙している人の方が15.3ポイント上回っている。(図3-3-2)

図3-3-3 性別 条例の制定が必要でない理由



性別にみると、「条例の制定よりも、喫煙者のマナー向上を目指す啓発活動等の強化が重要である」では女性の方が割合は高くなっている。「路上喫煙対策に新たな経費をかけるべきではない」、「条例で個人の行動を規制すべきではない」では共に男性の方が割合は高く、特に「条例で個人の行動を規制すべきではない」では16.7ポイントと男女差は大きくなっている。(図3-3-3)

図3-3-4 年齢別 条例の制定が必要でない理由



※「無回答」は省略

年齢別にみると、「条例の制定よりも、喫煙者のマナー向上を目指す啓発活動等の強化が重要である」の差はほとんどない。「路上喫煙対策に新たな経費をかけるべきではない」は60歳代以上の年代で低く、「条例で個人の行動を規制すべきではない」は30歳代以下の年代で低くなっている。(図3-3-4)